



2007年8月発行

NO.17

千代田まちづくり

サポート

通信

編集・発行 (財) まちみらい千代田企画総務グループ

東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア 4階
〒101-0054 TEL.03-3233-7555 FAX.03-3223-7557

財団ホームページ <http://www.mm-chiyoda.or.jp>

E-mail info@mm-chiyoda.or.jp

第9回公開審査会を開催。新しい活動が続々と登場し、18グループへの助成が決定！



平成19年6月9日（土）、ちよだプラットフォームスクウェアにて、「千代田まちづくりサポート第9回公開審査会」が開催された。今年度は、昨年度を上回る21グループが助成申請し、活気と楽しさ溢れる発表会となった。審査の結果、一般部門16グループ、トライアル部門2グループ、計18グループへの助成が決定し、助成金の総額は405万1千円となった。

今年度の応募グループの特徴として、21グループ中14グループが新しい活動による応募だった点が挙げられる。特に、学生が中心となったグループの参加が増えており、学生が地域と連携する活動が活発になってきた。また、今年は食に関する活動の応募が増えてきている。食とまちづくりという新たなテーマでのコラボレーションが、新しい地域活性のキーワードとなるよう期待したい。

今年度から、まちづくりサポートのOB組織であるCSC（千代田まちづくりサポートクラブ）との協働も積極的に行われる。まちづくりサポートで助成する活動には、一過性ではなく、継続的な活動が求められている。CSCの活動はその一翼を担うものとなってきている。今後、各グループがそれぞれの活動を行うときには、このようなOB組織や審査委員の知見などを十分に活用し、活発な活動をさらに実りあるものにしていただきたい。

【審査委員＝敬称略】

会長 鈴木伸治

(横浜市立大学国際総合学部准教授)

副会長 早田 宰

(早稲田大学社会科学総合学院教授)

委員 山本 担

(NPO法人東京セントラルパーク理事)

金城敦彦

(NPO法人大丸有エリアマネジメント協会事務局長)

田熊清徳

(神田芸芸祭実行委員長)

服部素子

(社団法人日本フィランソロピー協会)

渡辺ひとみ

(千代田区政策経営部政策推進担当部長)

目次 (発表順)

【一般部門】

- カンダヌメラボ 2
- 魁！神田塾 2
- 千代田文化会 2
- CAPPs 3
- 武蔵野美術大学 3
- コミュニケーションデザインチーム
- フレンドシップちよだ 3
- 神保町応援隊 4
- NPO法人地図文化研究会 4
- 日本橋川・神田川に清流をよみがえらせる会 4
- SOTOBORI CANAL WONDER 5
- C-bridge 5
- アキバ・クロスカルチャークラブ 5
- 神田フェーダー・ニュートラル 6
- カモステザイン研究会 6
- 食育。街行く研究会 6
- スローフード・セントラルイースト東京 7
- KIDS—こども飯田橋デザインスクール 7
- まちづくりワン 7
- helpus! 8

【トライアル部門】

- サロンfouyou 8
- NPO法人ちきゅう市民クラブ 8

【総評・審査委員講評】

【まちみらい千代田 賛助会員のご紹介】 12

1 創る・伝える・広がる カンダユメラボ 【3回目】

3年目の活動なので、これまでのことを振り返った。神田に対する僕らの夢を地域の人に伝え、共に考え、語り合っ、空間を創っていくことを目的とする。「創作屋台deうまいもの物産展」は、各自自治体とコラボして、名物料理を僕らが創って開いた。集客数がこれまでになくよかった。「パークラボ」は、サポートグループのCAPPSさんと常盤橋公園でイベントを開いた。公園の活性化が狙い。また、夢祭07は今川中学校で開いたが、神田の職人さんの話を聞く「ばってんスクール」の教科書を武蔵野美術大学のみなさんと創り、それを無料配布して、地域の人に好評を得た。

活動がしだいに地域の方の協力を得られるようになり、地域に根付いてきたと思う。

継続した活動ができるかについては、学生の団体なので卒業と同時に活動が終わるので、人員の確保が困難。だが、その精神を先輩から後輩に受け継ぎ、伝えることで活動の継続は可能だと考えてい

る。ただ活動の財源を確保するのは難しい。助成金に頼っているのが現状だ。

今年のテーマは「創る、伝える、広がる」で、活動の場所も新たに探さなくてはならないが、また1年間頑張りたい。

Q) 今年の活動は、具体的には何か? クリアーにしてほしい。

A) 現時点では、7月、8月に明治大学の方とコラボしてイベントをする。2年間の活動で、まず神田の人情を知り、今年はさらに他大学、他学部へ声をかける。

Q) 夢祭08の計画は? 助成金が出なくても継続していくか?

A) 当面は今年の夏のイベントに全力を注ぐ。この活動は大学では学べないことを、地域から学び、得ることが多い。今年1年の活動を通して、じっくり来年以降のことを考えていく。



2 神田っ子の育成 魁! 神田塾 【3回目】

親子で神田の文化を体験し、一緒に様々なものを創り、新旧住民の垣根を超えて交流し、まち全体で「神田っ子」を育てる。これまでの活動を継続して神田の文化の再発見企画を行うと共に、今年度の活動として「神田っ子応援団 [人材バンク]」を創る。神田に関する職人、芸人、語り部、スポーツ選手、芸術家など人材バンクを創り、子どもたちの夢を応援するため、養成講座や交流会を開く。

「神田巨大絵本づくり」は子どもたちの目で神田を取材し、好きな所を描いてもらい、それを学生やデザイナーで巨大絵本に仕上げる。それを各地域イベントに登場させ、神田の紹介絵本として使う。また年間を通した活動や神田っ子養成講座により「神田っ子検定」をして、「神田っ子認定証」を発行する。

今後の活動のことも考えて、神田っ子とは何か? 神田っ子の条件は? などみんなで考え、「神田っ子宣言」をする。

活動を持続させるためにも、資金の確保が大事なので、会費、イベントや検定参加費、企業、町会、商店街の協賛・協力などで継続する仕組みを考えていく。

子どもとまちの関わりづくりを通して、「共に生きる意識」と「まちへの愛着」を育み、その成長のプロセスを応援して、まちの担い手を長い時間をかけて育成していきたい。

Q) 参加者の感想やアンケート結果などはあるか?

A) 具体的に形にはしてない。母や子同士で話し合っている。

Q) いよいよ「神田っ子宣言」まで来たが、今後の活動は?

A) 続けるために、これまで無料の講座やイベント参加費を少しでも集める。企業の協賛があればうれしい。

Q) 神田巨大絵本とは、どのようなものか?

A) 2メートル大の神田の歴史や昔からのことが分かるようなストーリー形式の絵本だ。

Q) よくあるイベント活動だけでなく、「塾」として育成の部分を大切にして、神田から発信してほしい。



3 輝け熟年 千代田区 千代田文化会 【3回目】

3年前までは区内の高齢者は、引きこもり、ひとり住まいなどが多かったが、今は輝いている。でも、いちばん会が力を入れているのは家庭内孤独。一見、素敵な家族でも、なかなか若い人の話題に入らず、無理をしている高齢者が多い。それでストレスがたまる。より一層傾聴ボランティアに力を入れたい。

また去年ご指摘いただいて実現した戸外の散歩や小ピクニックは好評で、楽しみにしている人が多い。今年も北の丸公園や旧水戸家の庭園に、しだれ桜を見に行く予定。

新しい活動としては生涯学習として、千代田区の江戸時代からの歴史を学ぶ講座を始めた。高齢者の楽しみ、生きる力となる望をつくるため、ネットワークを広めたい。

ハード面はなかなかできないので、ソフト面の活動を続けていくので、よろしく願いたい。

Q) 月千円の会費で、今後も活動をしていくのか?

A) 会員が7名なので、7万円ほど。寄付などがあれば、その分会費が少なく済む。そのためにも会員制を進める。

Q) 歴史講座はどんなことを学ぶのか?

A) 千代田区の成り立ちなどを中心に年に6回勉強する。

Q) いろいろな世代が元気になる

ことは大切だ。散歩の時のお子さんの参加とは、どういう子どもたちか?

A) お孫さんを連れてくる人が多い。一人では外に出れない参加者に喜ばれ、自然に笑顔が生まれる。

Q) 会員の募集は? 会員を拡大することも大切かと思う。

A) 参加したり、協力したりしてくれる人は、200人くらいか。

Q) 参加者の感想等を学生さんたちの協力を得て、まとめられると、貴重なまちづくりの資料になる。呼びかけはどうか?

A) 文章を書くのは苦手な人が多いが、努力してみる。写真をとることも、「個人情報だ」とか、「肖像権だ」とかという人がいて、難しい。しかたなく写真も背後から撮っている。



4 千代田区公園アダプト制度を区民の立場からサポートし、広めることを目的とする CAPPS 【3回目】

あっという間に3年目。今年も「ちよだ花の道」マップは「千代田さくら祭り2007公式ガイドMAP」にも採用される。3月27日に日本紙通商(株)で日本製紙関連企業の方々に千代田区公園ボランティアのプレゼンを行う。4月は常盤橋公園春の桜まつりに始まり、アダプト・ブース(花壇)の設置と、アダプト活動のプレゼンを行う。同時に公園の清掃作業。また公園のにぎわいのために、企業の方に公園利用を呼びかける。

今年度は、以上の活動の継続と、もっと人に働きかける意味で、アダプト・イベントを行う。7月21日夏のイベントを決定。第5回船遊び「江戸東京の川再生発見実行委員会」とさらに連携した活動で、毎年350人を超える参加者がある。今回は千代田区のエコポートを常盤橋公園から日本橋まで走らせる。

他に「千代田区パーク・ドクター」をスタートし、公園の調査をして公園美化の具体的な計画を作成する。また昨年までの佐藤工業さんからのチューリップの球根寄付活動は「千代田チューリップコントリビューション」として発展させ、他の企業や学校にも働きか

け、広めていく。

「さくらサポーター通信」の発刊なども継続し、アダプト団体「緑キャピノーズ」のサポートをする。地域の環境美化には企業と区民の協力が必要で、公園サポーターを組織化して公園の美化、再生の活動を今後も続けていく。

- Q) 「パークドクター」について詳しい説明を。
A) 区はアダプト活動を全部の公園に適用していきたいと考えている。だが現状では町会単位でしかない。町会に関係しない住民も近くにいない公園を調査し、アダプトを適用していく。第1回目として千鳥ヶ淵小公園を調査する予定。
Q) これだけの活動を支える資金の、来年度以降の予定は？
A) 企業の協賛や、各公園のサポーターを募って、資金を集めていくことなど、具体的に検討している。
Q) 区の観光ビジョンとも合致するので、ぜひお願いしたい。



5 神保町を伝えるコミュニケーションデザイン 武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチーム 【3回目】

今年神保町を中心に、コミュニケーションデザインという観点からまちづくりを行う。1年目はすずらん通りをとりあげ、神保町の色のクレヨンを作り、2年目は変貌する街並みをテーマにまちの魅力を後世に伝える本を2冊創った。先輩から後輩へバトンタッチして、新たなデザインで、まちづくりを行う。

今回の目的は、前2冊の本に続いて本を創るが、神保町に今いる人々はどんな人で、何を考えているのか、メッセージは持っているか、などをまとめた。まず、人々の意見を聞くことから始める。書店や飲食店に投書箱を設置させてもらい、直接的には交流の場としてワークショップを開く。それらの声を編集して、たとえば投書の手書きのメモをそのまま印刷したり、人々の発信するメッセージを束ねた本を制作する。

その本は、まちのお祭りやイベントに出して販売する。できれば地域通貨の可能性もまちづくりに活かしたい。

- Q) 素朴な疑問として、コミュニケーションデザインとは、なぜまちづくりに必要なのか？ なぜ本を創るのか？

- A) まちというのは、建物や乗り物だけでなく、人の動きがあって成り立つ。1人1人の生きている日常での思いを大切にこそそのまちづくりだと思う。その思いを込めた、一方的な表現ではないリアリティーのある神保町の本にしたい。
Q) その本はどういう形で活かすのか？
A) お祭りやイベントで販売し、投書箱を置いてくれた店にもお礼に贈呈したいと思う。
Q) 次につなげるにはどうしたらいいか考えているか？
A) 次の年のメンバーにまかせたい。一つの可能性としては、地域通貨のことなどを考えている。
Q) 去年の本もすばらしかったので、期待している。ぜひ販売も考えて、「神保町応援隊」のメンバーと協力を。



6 地域に根ざした国際交流 フレンドシップちよだ 【3回目】

千代田区を基盤に、国際交流の実現を目的とする。今年で設立6年目、会員は33名。活動の柱は2つで、1つは日本文化を在日外国人の方に紹介するイベントを年に10回開催。2つ目は千代田区立番町小学校の子どもたちに、年に12回、外国文化を体験するサタデースクールを実施。どちらも好評を得ている。

今年はこのサポートも3年目の活動で充実してきた。1年目はホームページの充実、2年目は各イベントのグレードアップを図り、参加者数も増えた。本年度は新たに3つの挑戦をする。1つ目は親子で国際交流のイベント開催。去年の餅つき大会を見本に親子で互いの国の文化を体験する。2つ目は、ビデオの作成。活動の記録をホームページ上に公開する。3つ目はパンフレットを作成する。これまでの体験の写真を載せて魅力あるものにしたいと思っている。

今後の活動資金は、これまで500円だったイベントの参加費の見直しと、広く寄付などを考えている。国際交流の一層の充実を目指していくので、ご支援をよろしく。

- Q) トランシーバーや携帯電話を購入とした経費の説明を。
A) トランシーバーは、レンタルが高いため、購入とした。
Q) これぞ千代田という活動は何か？
A) 現在、室内イベントの会場は番町、麴町両小学校。
Q) 他の団体と協力してやることはないのか？ シニア会員制度とか企画書にはあるが、それはなぜか？
A) この審査会や成果発表会で他の団体から学ぶことが多い。ぜひ、3年後の会員でもできればいっしょに活動したい。
Q) 参加者に、まちの印象など変わってきた点などあるか？
A) 皇居を案内した時など、実際に見ると気づく点があるようだ。それで、会にお友だちを紹介してきたりする。



一般部門2回目

7 よそ者と若者、住民と商店街、知恵と力を合わせ神保町を元気ある街に 神保町応援隊 【2回目】

1年目の活動で、サポートにお世話になり、多くの方と出会っていっしょに活動できたことを感謝したい。2年目の挑戦として、いろんな人にお会いすると、まちへの思いが強いことを実感し、「神保町サミット」の開催を企画した。学生、商店街、在勤、在住の人たちで、まちを盛り上げていきたい。これまで通り、「神保町古本祭り」も応援していく。

今後の活動資金として、企業にも働きかけ、フリーペーパー「おさんぼ神保町」のスポンサーや広告などをとり、自立していく道を探る。また人材の確保と育成には、去年のお祭りで学生さんのテントを設けたように、さらに人を育む場を創っていく。このサポートの他の団体を応援し、協力していくことは、もちろん今後も続けていきたい。

また子どもたちと家族が生き生きできる場や、まちづくりを目指して、3年目以降も視野に入れ、元気に楽しく、いろいろ活動していきたい。

Q) 子どもたちと生き生きできる場所とは、具体的にはどういう場所を考えているのか？

A) 「すずらんまつり」と「ブックフェスティバル」のイベントで、出店の他に横丁に子どもの遊び場を造る計画を立てた。安心して子どもたちが遊べるように、その具体策を今、スタッフと考えているところだ。

Q) 助成金以外で、サポートに参加してよかったことは？

A) 何よりも多くの人と出会い、交流できたことだが、やはりお金は大切で、1年目は、揃いのTシャツや幟などを造るのに費用がかかった。活動を継続させるためにも、応援に来てくれる人に、少しでも負担を和らげる意味で、サポートの助成の分を回せた（1人に2千円くらい）ことはよかった。

Q) すると、「おさんぼ神保町」の発刊には、広告料や寄付金で間に合わせられたということか？

A) はい。そう理解していただいてもよい。



一般部門1回目

8 地図を活用した魅力ある“まち”千代田の実現 NPO法人 地図文化研究会 【1回目】

私たちのプロジェクトは地図を活用してまちづくりに貢献する。最終的には、区民参加の提案型、調査研究共同事業に発展させることが目的。具体的には区民参加の学習会で地図を読める人材、住みよい魅力的なまちづくりの提案ができる人材を育成する。

さらに震災時などを考慮して地域に役立つ未来地図の提案。現在の情報を一元化し、その中でたとえば子どもの問題とか、弱者の問題などを多角的に把握する。地図を通していろんな情報を関連付けることができる。

そのためには地図を見るのではなく、読めなくてはいけない。昨今は読めない人が増えている。地図を通して地域経済の推進力や歴史文化を継承するバランス感覚が豊かな知識人を養う。豊かなまちづくりに寄与し、社会貢献の達成を目的に活動する。

神田小川町に小さな博物館（マップミュージアム）を開館している。月間展示もし、地図との触れ合い、交流の場、体験学習の場として開放されている。サポートに応募したのは、これまでの受動的な立場での社会貢献では、真のまちづくりはできないと考え、積極

的にプロジェクトを進めようと決心。また、多くの人と出会い、地図を介して協力関係が結べると思った。我々の体験や知識がお役にたてると思った。各分野の専門家がそろっているの、行政との協働事業も実施可能である。

Q) 実際NPO法人として活動されているが、街に出て活動したいの、サポートに応募したということか？

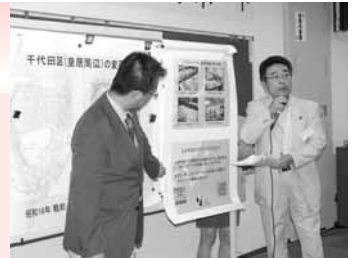
A) はい。まずそのために学習会やワークショップを区民と開催しようということで、最終的には共同事業を考えている。

Q) ワークショップや学習会をどこで誰を対象に考えているか？

A) 博物館と会の拠点となる内外地図（株）から提供された場所やホームページで、すべての人を対象にしている。

Q) 体験学習会のソフトの費用が高額だが、説明を。

A) GISソフトなど著作権の問題で高額にならざるを得ない。



9 日本橋川・神田川に清流をよみがえらせる 日本橋川・神田川に清流をよみがえらせる会 【1回目】

去年の秋に設立した会。EM菌を使って川の浄化、再生に努める。川といっても堀割のような、逆流するような川の現状を何とかしたい。町内会の人にも話しているが、長い間に汚した川は簡単にはよみがえらない。6月に「キャンドルナイトin神田川」として、EM菌団子投入イベントを開く。千代田区のエコボートを借りて、乗船会を行い、実際にボートで川を見てもらう。さらに、障害者も楽しめるエコボート体験乗船会や、夏休みに「川を見直す子ども学習会」を開く。

また、家庭のお米のとぎ汁からEM菌培養液を作る講習会も予定

している。

企業の協力も得て活動を続け、魚や昆虫の棲む川を、水遊びやお花見、散歩など、川がもたらす生活の楽しみを取り戻し、自然環境を大切にするまちづくりを進めていきたい。

Q) 目的はすばらしい。町会にももっと働きかけるべきだ。会費も安過ぎると思う。EM菌の団子も買ってもらって、子どもたちにも川に投げ入れてもらうといい。がんばってください。



- A) まずは会の活動を知ってもらおうと思う。いずれは自分たちでEM菌団子を作れると思っている。
- Q) 上流域の方の活動団体と連携しているのか？
- A) 上流よりも、外濠から流れ込む水の問題があるので、そちらの方と連携し、研究していきたい。

- Q) 企画書の護岸、高速道路の現状と改善についての活動は？
- A) 会員の状況から、まだそれには取りかかれぬ。将来的には目標としている活動なので、取り組んでいきたい。いずれにせよ、地域の住民と企業なども連携を図りながら、息の長い活動を続けていくつもりだ。

10 千代田区の歴史環境遺産・外濠を伝えたい SOTOBORI CANAL WONDER 【1回目】

東京の水辺に関心をもった学生の集まり。外濠というのが、歴史のある場所だと伺い、調査した。その結果、もっと外濠のことを広く知らせていきたいと考えた。現状では、ほとんど利用されていないが、江戸時代は、飯田橋の所に神楽河岸があって、にぎわっていた。それが埋め立てられ、寂れてしまった。

私たちは、もう一度市民に親しまれる外濠の再生に力を注ぎたい。5月に外濠でワークショップを開いたところ、学生だけでなく一般の方にも関心が高いことがわかった。それで、ぜひ一般の方にも活動を広めるような提案をさせていただこうと思った。長い期間にわたる活動にしていく。

まず、Eポートを使い水辺空間の良さを体験し、都市を水辺から考える水上レクチャーを行う。2年目には、学生が行った調査研究の内容を一般の人たちに、提案という形で示す。3年目には、学生と一般の方がいっしょにワークショップを行い、そこから、提案という形にしていく。4年目以降は、それを発展させて、外濠を活用できる場所にしていきたい。

最終的には報告書を創り、都や千代田区、新宿区などに提案できたらと思う。3年間の活動では私たちが区と住民のパイプ役になって、外濠の再生について考え、積極的に取り組むきっかけを創ればと考えている。千代田区の歴史遺産が千代田らしさを生み出していくと思われる。

- Q) 一般の方の参加というが、どれくらいの参加なのか？
- A) 5月のワークショップでは学生だけでやっていたところ、一般の方の希望者がいた。それで、一般にも開きたいと考えた。そこで区の方ともお話し、住民の方との協力体制を創れた。
- Q) 一般の人にはどう広報し、何人くらいの参加を見込むのか？
- A) まずは100名位を目標とする。メディアへの広報を行う。
- Q) 区のホームページや広報に連絡をするというと思う。
- A) それができれば、有難い。



11 橋を視点として考える千代田の観光まちづくり C-bridge 【1回目】

千代田区の橋をまちづくりの中にアピールしていきたいという意味で会の名称を命名した。区の景観まちづくり審議会では昨年「景観まちづくり重要物件（橋梁）選定検討会」で20の橋を選定した。千代田区にはデザイン的にも歴史的にも素晴らしい橋がいっぱいある。それを観光資源として活用できないか、まちづくりの中でどう活かしたらいいかを検討していく。さらに橋は景観として見過ごされがちだが、どう見直すべきか、市民を巻き込んで橋の保存と活用を考えていきたい。

具体的には公開講座や橋を見て歩くブリッジ・ウォークなどをし、ディスカッションして探っていく。大学1年生に日本橋川と神田川を歩いてもらい、実際に橋を見た後にアンケートを実施した。橋をどう見るか、どこがいいか感想や意見を聞く。その後橋の歴史や橋の見方などの情報を与え、学生がどう変化して表現するかを把握する。そして区内の橋のデータベースを創る。区民にもブリッジ・ウォークをしてもらい、橋のアンケートをし、それを踏まえてパネルディスカッションする。

Q) 市民を巻き込むというが、なぜアンケートは学生なのか？

- A) 今回は、プレ・アンケートとして行った。今後は一般市民に意見を求めていく。アンケートも行う予定だ。
- Q) 研究室の研究データベース作りのようにも見えるが？
- A) 研究調査はまちづくりにどう活かすかが主旨になっている。
- Q) 橋はまちのシンボルだったり、重要なファクターだと思うが、活動を区民に広げていく方法を具体的に考えているか？
- A) NPOや地域の活動している方といっしょにやっていくこと。将来的には連携をとってやっていきたい。
- Q) 現地調査での「説明板の設置場所等の調査」とあるが、それを立てるという方向で活動するのか？
- A) いや、草地などで板が見づらい場所があるので調べる。市民に橋を理解してもらおう重要なツールだと思う。
- Q) 戦争の傷跡の残る橋もあるので、地元で取材してほしい。



12 勤住商趣の融合の場づくりを目指す アキバ・クロスカルチャークラブ 【1回目】

私たちは、都心居住の調査を行う中で、秋葉原再開発地区の超高層集合住宅（300世帯）の住居者が、地域住民とのコミュニケーション不足に問題を感じていることが分かった。新旧住民の理解が深まることにより地域活動が活発化し、地域の可能性も高まる。そこで、業務、研究、商業、趣味の分野で秋葉原に関係する人たちと交流し、地域の住民と融合する場を開発するコミュニティウェアを活用したイベントを創出する。

既存街区と都市再開発が共存共栄するための課題、方法、展望を提言していきたい。秋葉原において継続したまちづくりを実践するにはエリアマネジメントはもちろん、新旧住民が協力することが必

要。それには客観的に地域の現状や資源を見極め、その調査研究を基に、秋葉原に関わる様々なフィールドの人々が融合し、コミュニティ形成の観点から見た都市再生のあるべき姿を発信していくことが大事だと考えている。

- Q) メンバーの中に旧住民がいるのか？
- A) 以前住んでいたが今は住んでいない。ただ、加入した連合町会には旧住民がいる。
- Q) もっと地元と連絡をとらないと、第三者がイベントをやるのは



大変。神保町応援隊と協力すると思う。

- Q) コミュニティウェアとは？ 秋葉原のタウンマネージメントのグループとは連携しているのか？
- A) 具体的な物はないが、調査研究によってコミュニティに必要なものを創っていききたい。同グループとは、まだ表だって交渉し

ていないが、今後連携していけたらと思う。

- Q) あえてこのサポートに応募された理由はなにか？
- A) 新住民の方に地域の方々とコミュニケーションを取りたいという希望があった。会の中だけでは地域との活動が不十分だと感じたから、1歩踏み出した。

13 輝けおっちゃんの街・音楽を通じた特色ある街づくりプロジェクト 神田フェーダー・ニュートラル 【1回目】

野外音楽ライブを通して、神田東口地域を中心に活性化を図る。たとえば、DJ（メンバーと地元商店街と青年部を意味する）が新しいサウンドを創るのに使うミキサーの操作でフェーダーの役目を果たす。この操作で神田の新しい魅力を創る。この地域は小さなオフィスビルの街というイメージで、あまり特色がない。しかしサラリーマンには居心地がよい。昭和から続くレトロな街並みのビジネス街や、安くて旨い豊富な食堂街。この町をさらに活性化するには、大きなビルを建てるような再開発を行わずに、この地域資源を活かしていく。

神田祭が象徴する地元のみなさんの力と、中高年のサラリーマン・ミュージシャン、親父バンドなどのアマチュア音楽家たち、この両車輪をうまく回すことで、特色あるまちづくりができると思う。まずストリートライブの場を設けて、若者のミュージシャンたちも神田に足を向けるようにする。

もう一つは、各種の情報発信、特にフリーペーパーの発行で外からの参加者も地元の方と情報を共有できる。地域の方のアイディア

を取り入れ、音楽と融合させ、活気のあるまちづくりに貢献できる。将来は、収益も上がるようにしたい。

- Q) すでに今、おっちゃんたちとのコミュニケーションは？
- A) ライブハウス・イズルデの方に協力いただいて、人を紹介してもらったり、今川中学校の隣のカフェのおっちゃんもギターをやるので発表の場がほしい、という。それで、神田東口のJR用地を借りて、ストリートライブをやることに決めた。参加者は、希望が多かったので、審査をしてほんとに神田が好きなおっちゃんたち、思ってくれる人たちに絞った。
- Q) 地道にやっていると面白い活動になると思う。がんばって。
- Q) 地元から出た話か、メンバーの方から提案したのか？
- A) カフェでおっちゃんたちから出た話を、練り上げた企画。



14 かんだ弁当 カモデザイン研究会 【1回目】

カモというのは「醸す」から採っている。主に都市の可能性を引き出すようなデザインや建築などに興味のある者の会。今回提案する企画として「かんだ弁当」を考えた。弁当をデザインすることで神田のまちを活性化させるというプロジェクト。単に名物弁当を創るというだけではなく、その弁当を食べる空間を併せて考える。つまり、神田のまち中で食べることでできる、まちを巻き込むような弁当。具体的にはお弁当のパッケージにデザインした地図を載せ、お弁当を持った人たちがまちを歩き、空地や路地、ビルの屋上などを使えるようにする。

このお弁当は、今年の神田技芸祭に出品販売することを目標とする。小さなお弁当で神田のまちににぎわいをもたらしたい。お弁当のレシピは地元の食文化を参考に、商店街の飲食店さんたちといっしょに考え、メンバーが集めた食材で調理してもらおうようにできたらと思う。

食べるという当たり前のことを通して、まち中の空間を積極的に場所を探して歩くということが、変化をもたらせればうれしい。思

いつまで終わらせないよう、がんばりたい。

- Q) 技芸祭はまちづくりの団体だが、まちと協議をしなければならぬ。アイディアはいいが、かなり難しい。
- Q) 助成金だけに頼るのではなく、商店街との協力とかしないと、3年間で終わるサポートの先はどうするのか？
- Q) お弁当だけでは欲がない。その後の発展したイメージは？
- A) これをきっかけに、まちの活性化につながればと思う。
- Q) このサポートの3年間で具体的に考えていないのか？ また、お弁当を実際に作ってもらった協力者は他にはあるのか？
- A) 長い目で見るなら技芸祭は毎年あるので、そのつど考えていきたい。協力者は、スローフードのグループなどもある。



15 食でつなげる街の活性化 食育。街行く研究会 【1回目】

「食」をキーワードに、まちのなかでどんなことができるか実験をしたい。去年、区の食育推進計画の委員として活動し、行政とガイドブックを作った。23区のアンケート調査で、千代田区の子もたちが親と一緒に、蕎麦屋、鮎屋、天ぷら屋など伝統的な地域の店に行くことが抜群に多いことがわかった。またそういうお店の情報を何らかの形で伝達されたことがあるという子どもたちが40パーセントもいた。イベントに参加することなどで、食文化を担う大人から、食育の大切さが伝わっているのだと思う。地域の果たす役割は何かを改めて考えた。

「食」というのは、人間の基本の部分であり、観光や文化、安全、健康、家族、農業、スポーツなど、様々な事柄と関連がある。食育の果たす役割は何かを考えた時に、その大切さを痛感した。さらに、調査や研究を続け、発展させて、カラー刷りのもっと立派な食育ガイドブックを作り、手渡していきたい。

郷土食の普及やアレルギー問題など、地域、学校、家庭で話し合わなければならないことが多く、その一助として、人々をつなげ、人とまちをつなげる活動に発展するようにしたいので、ぜひ援助をお願いする。

- Q) 新しいガイドブックはどこに配布するのか？
- A) 学校、飲食店に配って、人々や子どもに手渡したい。その子どもたちが健康に成長して、神田のサラリーマンになれば、地元の店にも食べにくるだろうし、それはそれでいいなと思う。
- Q) 「食」というのは、あらゆる生物にとって大事なことで、近く開かれる区議会でも、アピールしてはどうか？
- A) できれば、ぜひ、そうしたいところだ。ともかく、このサポートで3年間やるつもりなので、よろしくお願ひしたい。



16 食文化の交流地・神田を実現する スローフード・セントラルイースト東京 【1回目】

食文化の交流を神田駅周辺地域のアイデンティティーや個性の再生再発見に活かす。次々に大規模な再開発が行われている中で、この辺りだけが開発が一歩出遅れているが、神田は低いビルが密集している雑多なにぎわいが持ち味。ビルを建てるのではなく、神田らしさを創る、表現できるアイデンティティーとは何か。やはり食文化であるという結論に辿り着いた。

歴史的に見ると、日本橋には魚河岸が、神田多町には青物市場があった。江戸時代には参勤交代などもあって、全国から食材が集まり、人々や文化の交流が盛んだった。江戸で生まれたものが洗練されて全国に出て行った。そうした神田のまちの色を再発信する意味で「食文化情報のハブ基地」化を提案する。

そこで、イタリアで発祥した「スローフード」の考え方に賛同し、神田、日本橋を拠点に「スローフード協会セントラルイースト東京(CET)」を設立した。この運動は農・漁業の小規模生産者や地産地消(その地の産物をその地で消費する)のイメージがあるが、大きな使命は多様な食文化の情報伝達である。たとえば秋田県の「しょっつる鍋料理」のワークショップとか、三重県の真牡蠣の漁師の調理

法「浜焼き」を今川中学校の調理室で行った。こうした活動は、継続的にやらないとまち起こしにはならないので、今後も同中学校で行いたい。実際に地元と三重県の交流が始まっているが、そうした人と人との交流も続けたい。定期的にやらないと、まちのカラーになるまでには行かない。その発展上に、神田の空きビルにアンテナショップや郷土食の飲食店が入り、地域の資産向上にもなる。

- Q) 去年は助成がなくても実行、今年は助成が必要な理由は？
A) スローフードの支部ができて2年、立ち上がりは全国の支部から支援があったが、いつまでもそれだけには頼れない。
Q) 神田が「情報のハブ基地」化するための戦略はあるか？
A) 物産店が神田の小さなビルに入り、面が広がり、にぎわう。テーマパークを新たに造るのではなく、元からあるまちに入ること、ハブ基地化する。



17 飯田橋を「こどもたちからまちづくり」でかえる KIDS -こども飯田橋デザインスクール- 【1回目】

法政大学工学部建築学科の学生メンバー。飯田橋では様々な都市開発が行われようとしているが、住んでいるこどもたちにとっての理想のまちとは何かを考えた。こどもたちが成長したとき、今暮らしている千代田区は故里になる。自分が生まれ育った場所に愛着を持ってほしい。まずこどもたちといっしょにまちに出て歩きながら、まちには何かがあるのか、どうしてできたのかを調べる。区立富士見小学校5年生の総合学習の時間(2時間×6回)に、この地域の都市としての特徴を勉強するワークショップの開催。このまちには何が足りないのか、絵に描いてもらい模型を創る。専門家が創った模型に、こどもたちの提案を重ねていく。こどもたちの提案からヒントを得て、専門家がまちづくりとして形にしていく。

できた模型を、法政大学キャンパスや区の施設などに展示し、住民の意見を反映させていく。こどもたちが発信したアイディアは、ソフトとしてはどうか、景観的にはいいのか、実現の可能性も含めて検討し、専門家も招いて発表会を開く。その内容をまとめ、こどもたちの作品集として冊子にまとめる。それをこどもたちや学校に配布し、まちづくり学習に役立てる。

- Q) ワークショップは小学校の授業として行うのみか？
A) 今回は授業としてやる。今後の展開としてはやりたい子を集めたり、親子で参加したり、次の形を考えていきたい。
Q) 実際のまちづくりにつながるのか？ こどもの夢をどう実現するのか、単なる学習教材に終わらないか？
A) まちづくりに大切なのは、最終的にはそこに住む人たちが決めることだと思う。だからこどもたちの思いを活かしたい。
Q) 総合学習の時間にやることは学校と話がついているのか？
A) やりたいと申し入れて、いいでしょうと言われている。
Q) 法政大学としてやるなら大学や学生の自己負担なのは？
A) まちづくりなら、サポート事業のなかでやることに意味がある。大学の中だけでなく、行政や企業も入れて人の輪を増やし、その上でまちづくりをしていきたい。だからこそ応募した。



18 犬と一緒にまちづくり まちづくりワン 【1回目】

犬の取り持つ縁、犬の力をまちづくりに活かせないかと、昨年とはトライアルで参加。始めてみると、いろんな人が声をかけてくることに驚いた。子どもたちまで、触らせてと来て来ては「癒された」などと言う。犬友だちもいっぱいでき、地域の人たちとの触れ合いが増えた。これなら、まちづくりに新しい試みができないかとトライアルしている。

今年は、犬の散歩道に最適なアイガーデンの清掃活動が定着したので、さらに会員を増やし、もっと地域に広げ、マナーの啓発にも努めたい。子どもたちや地域の人、通勤の人たちなどいろんなコミュニケーションを図っていく。シンボルマークのついたバックとリードをもって散歩するワンワンパトロールで防犯にも役立ちたい。課題としては、コミュニケーションをとるための方策を考え、清掃のほか、セラピードッグを使い、お年寄りや子どもたちと触れ合う工夫をする。さらに、ペットと人間のことを研究している専門家を講師に招き、マナー教室も開き、交流の場を広げていきたい。小

- さいながらドッグランもできて、活動は徐々に発展し、会員も増えつつある。
Q) 会員は何人くらいで、会費は集めているのか？
A) 10名で、今のところは会費はない。交流会の時は会費制。
Q) 年会費を決めて、会則というか説明をきちんとすれば、いずれ、独り立ちできるのではないかと？
A) お金を集めるのが難しく、どうしたらいいかわからない。
Q) たとえば講演会の時に参加費をとってはどうか？
A) ドックカフェなどの情報も集めたいので、そこで講演会を開けば、会費をとり、会員も増やせるかもしれない。
Q) 富士見町だけでの活動か、千代田区全体ではどうか？
A) 麹町とか神保町、神田など少しずつ広げている。できれば区全体に広げたい。



19 「神保町と学生」互いの向上を目指す helpus! (ヘルパス) 【1回目】

今年の2月に設立した学生のグループ。地域とのネットワークをつくるのが重要と考え、目安箱活動を始めた。神保町の方々の地域の悩みを伺って、学生がアイデアを出し合い、解決策を提案する。たとえば「学生のアルバイトが全然来ない」と言われ、まず求人広告を創った。それでもだめなので、HPで日記風に映像を創って流した結果、バイトの方が見えた。

すずらん祭りにも参加させていただく。東神田町会に属して神田祭宮入参加、また観光サポーターツアーの学生会議に参加。7月には、独自に学生ツアーをやるので、よろしく。

神保町の楽しみ方を提案する企画で学生をターゲットに斬新なフリーブックを作成する。さらにお茶の水茗溪通り祭りにも、神保町応援隊の方々と古書祭りにも参加したい。

こうした活動の集大成として、学生を対象としたイベントを来年1月以降に開催する予定。今盛り上がっている神保町の熱い流れを切らさず、受け継いでつなげていきたい。

Q) たとえば、^{まいた}組板橋が汚いで清掃してくれと言え、やってくれるのか？

A) ほんとに困っているならやる。それが僕らに伝われば動く。

Q) 学生のネットワークは大丈夫か？

A) 助成金を頂いた際には、ホームページなどできちんとする。もともと神保町周辺の5大学で連携したまちづくりを考えるインターユニバーシティ神田の参加から生まれた会なので。

Q) 財政的な基盤は大丈夫か？

A) まだ、考案中。まず、フリーブックを創ることからやる。

Q) 個人的な悩みに応えるのであれば、個人から費用をもらうべきではないか。このサポートへの応募の理由は何か？

A) 神保町をよくしたいという思い、それには地域の人と学生が助け合う。それがまちづくりであり、公の活動だと思う。



トライアル部門

20 明日を生きる高齢者のちから・・・知育・体育・食育 青春をいつまでも サロン foryou 【トライアル部門1回目】

神戸から単身赴任で来て、12年たった。阪神淡路大震災を経験したが、あの時、自衛隊が来てくれて、地域の人が近くにいないと、やはりだめだということがわかった。地域力の大切さが身にしみた。それで、できるだけ地域に溶け込んで生活してきた。北の丸公園の朝のラジオ体操の会に入り、続けている。

震災の時にみなさんから受けた恩のお返しとして、地域の活性化やコミュニケーションを図ると共に、生活のサポートをしたいと思い区内の高齢者を対象に、「元気講座」を開催。講師の方への謝礼の足しになればと、トライアル部門に応募した。

具体的には、知の力、体の力、食の力を学び、地域の活動団体と協力しながら、健康なアンチエイジングを実現する。

Q) 地域とどう関わるのか？ 個人的な集まりを支援はできない。
A) 会員を増やしてという目標は決めていない。千代田区で区内の講師で1年間やってみよう。その中で広がりが出ればと思う。自分が神戸に帰った後も、バトンタッチできる人を見つ

かればと考えている。できれば「北の丸元気会」としていずれは独立し、継続させたい。

Q) 「元気講座」サロンをどう

いう場で、どう参加を呼びかけてやっていくのか？

A) 第1回目は6月にやった。九段下と神楽坂を学ぶ町学で、本を出す先生に集まっていたいて、富士見会館で千円会費で開いたところ、18人参加した。7月には、「名刺を作ろう」という講座。コミュニケーションの要はオリジナル名刺だ。場所は他にも自宅マンションの集客室や、カラオケ会場などでも開く。そのつど地域に根付いた場所で。呼びかけるのは知人を中心に声をかける。サポートでご紹介いただければありがたい。



21 多国籍居住時代・異文化理解によるこれからのまちづくり人材の育成 NPO法人ちきゅう市民クラブ 【トライアル部門1回目】

10年ほど前、長洲神奈川知事が推進した「ちきゅう市民かながわプラザ」の国際理解展示に企画設計したメンバーから生まれた会。長くアジアの留学生と日本のこどもたちとの異文化交流をしてきた。その中でやはり多国籍居住時代で異文化共生の今日、まちには多国籍の人々が住んでいることを実感した。

そうした人たちの宗教や異文化を理解していく人材を育成し、まちづくりをしていく必要がある。「まちづくり」は「ひとづくり」から始まるからだ。

たとえば、イスラム教徒が礼拝をしていると、恐怖心を抱く人が多いらしい。彼らは「商売がうまくいきますように」とか、「家族が安全に平和に暮らせますように」とお祈りしているにすぎないのに、大変な偏見を持たれるようだ。

私自身が麹町小学校を卒業しているので、校長先生と話して、イスラムの留学生の話をごどもたちに聞かせたり、モンゴルのこども

の遊びや、学校で習う伝統舞踊とかをやったり見たりする。そうして異文化理解をしたこどもたちがやがてまちづくりをしていくようになる。それを願って活動していく。

Q) 麹町小学校で実施予定とあるが、決定はしたのか？

A) その後の職員会議で少なくとも上級生にイスラム文化の話をする事は決定し、中学年にはどの国の話にするか検討中。

Q) 帰国子女も含め外国人のこどもたちが多いので、異文化を正しく理解するために、学校とタイアップして行くのか？

A) 目的は帰国子女の問題だけではないが、その通りだ。

Q) フレンドシップ千代田の団体と協働してやってはどうか？

A) メンバーの交換、交流などぜひしたいと思っている。



部門	回数	団体名	申請額	一次評価	二次評価	助成	助成額
一般	3	カンダユメラボ	45	★★★★◆◆◆	●●●	★	25.4
一般	3	魁！神田塾	50	★★★★◆◆◆	●●●●	★	27.0
一般	3	千代田文化会	17.9	★★★★◆◆◆	●●●●	★	11.6
一般	3	CAPPS	50	★★★★★	●●●●●●●	★	46.1
一般	3	武蔵野美術大学 コミュニケーションデザインチーム	20	★★★★◆◆▲	●●●●	★	15.1
一般	3	フレンドシップちよだ	50	★★★★◆◆◆	●●●	★	21.4
一般	2	神保町応援隊	50	★★★★★◆	●●●●●	★	32.9
一般	1	NPO法人 地図文化研究会	50	★★◆◆▲▲▲	●●●	★	16.4
一般	1	日本橋川・神田川に清流を よみがえらせる会	50	★★◆◆◆▲▲	●●●	★	18.6
一般	1	SOTOBORI CANAL WONDER	18.4	★★★★▲▲▲	●●●●	★	13.7
一般	1	C-bridge	49.5	★★★★◆◆▲	●●●●	★	23.6
一般	1	アキバ・クロスカルチャークラブ	50	▲▲▲▲▲▲▲			0.0
一般	1	神田フェーダー・ニュートラル	44	★★★★★	●●●●●●●	★	36.9
一般	1	カモスデザイン研究会	50	◆◆◆▲▲▲▲			0.0
一般	1	食育。街行く研究会	50	★★★★★◆	●●●●●●●	★	41.4
一般	1	スローフード ・セントラルイースト東京	50	★★★★◆◆◆	●●●●●	★	37.1
一般	1	KIDS -こども飯田橋 デザインスクール-	50	◆◆◆▲▲▲▲			0.0
一般	1	まちづくりワン	12	★★★★★	●●●●●●●	★	11.6
一般	1	helpus!(ヘルパス)	50	◆◆◆◆◆▲	●●●	★	16.3
トライ	1	サロン for you	5	-	-	★	5.0
トライ	1	NPO法人 ちきゅう市民クラブ	5	-	-	★	5.0

【審査結果】 第1回投票：★活動企画内容を支持し、今回のサポート助成が必要と考えられる
◆活動企画内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい
▲社会的に意義ある活動だが、サポート助成の趣旨になじみにくいとする
第2回投票：●今回の助成対象として推薦する

総評

(鈴木伸治会長)

惜しくも今回は、助成の選に漏れてしまったグループが3つありますが、ぜひ、いろいろな形で活動を続けられて、来年度以降、まちづくりサポートに応募していただければと思います。

金額を決める段階で、いつも悩むのは、実際にこの全額で提案した活動ができるのだろうか、という点です。しかし、我々も一律に助成の金額を決めているわけではなく、このグループだったら、もうかなり自立した活動ができるのではないだろうか、組織としての体力があるし大丈夫ではないかといった点を考えて、金額を設定しています。金額を減らすということは、活動の評価が低いのではないことをご承知おきください。

最後に初めてのグループもできるだけ入れて、助成グループ

を増やしたのは、このサポート事業の目的が、各グループが、互いに知り合い、つながりを創って、他の活動を見て自分たちの活動をブラッシュ・アップし、レベルアップしていく。その過程で新たな発想も湧いてくると思うからです。

そういった意味をこめて、なるべく活動団体を増やしました。その分助成金は少なくなりますし、ご不満な点もあるかもしれませんが、私は金額の多募が活動の価値を決めるとは思いません。中間や最終成果発表会で金額は少なくとも、素晴らしい活動をしているグループが実際に出てきます。その成長ぶりを見るのが審査委員の楽しみです。中間、最終発表会に向けて、活動を高めていただきたいと思います。

審査委員の方々



鈴木 会長

早田 副会長

田熊 委員

服部 委員

山本 委員

金城 委員

渡辺 委員

審査員 講評

1 カンダユメラボ (3回目)

3年目を迎えたカンダユメラボ。学生主体のグループということで、大変熱心でユニークな活動が評価され、他のグループとの協働もうまく、地域との交流も進んでいるようです。しかし、学生主体のグループ故に、メンバーの入れ替わりや、継続的な活動へ向けての組織体制づくりが気になるところです。OBOG組織を作るなど、今年度以降の活動も視野に入れながら、がんばってほしいと思います。(鈴木)

2 魁! 神田塾 (3回目)

新旧住民が垣根を越えて交流し、まち全体で神田っ子を育てること。大変素晴らしいと思います。昔の神田は、子供の元気な声(遊ぶ・けんかする)や子供を叱る大人の声が飛び交っていました。この活動がまち全体に広がった時、地域・学校・家庭で失われていた何かが見つかりそうな気がします。グループの輪を広げるために一番大切なものは、塾としての基本理念と育成プロジェクトです。3年目の集大成として、また活動の継続のためにも「神田っ子宣言」の発信を期待しています。(田熊)

3 千代田文化会 (3回目)

家庭内孤独を解消——互いに気持ち分かる熟年同士だからこそ可能な素晴らしい活動だと思います。歳をとることがただ不安でしかないのではなく、熟年発の「まちづくり活動」として千代田の街に根付いていくことを強く望んでいます。まちづくりに関心のある学生などを外出プログラムに同行し、分析の協力を得て、「まちの点検」として記録し、HPなどで区民にお知らせする——そうした広がりへつながればさらに素晴らしいと思います。(服部)

4 CAPPS (3回目)

3回目の応募ということで、すでに実績もあり、確実な歩みに多くの期待が寄せられました。「千代田区公園アダプト制度」に積極的に参加していく中で、様々な事業に精力的に取り組んできましたが、今年度は千代田パークドクターの実施、企業協賛による「チューリップコントリビューション」の開始など、さらに活動の範囲を広げていることが、高い評価につながりました。これからもぜひ、企業や地域の人々と一緒になって、末永く千代田区の公園美化、環境美化を通した「まちづくり活動」を展開していただきたい。(渡辺)

5 武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチーム (3回目)

過去2回の活動成果が地元を受け入れられている。デザイン力でコミュニケーションを掘り起こし、育てるといふ点で、街に新風を吹き込んだのではないかと。学生がまちづくりに参加する土壌があるのは千代田の強みと言えるが、

地元の大学でないこと、年度毎にメンバーがほぼ全員交代しているという脆弱さもある。この点はむしろ、参加経験者が増える、世代交代と活動継続の経験ができると考えて、その精神・心得を蓄積し、それを他グループにも伝授して欲しい。(金城)

6 フレンドシップちよだ (3回目)

過去2年のサポートへの応募によって、HPの充実など、活動基盤が安定してきたとのことで、審査する側としてもうれしく思います。一方で、活動内容に関しては「ちよだ」らしい活動をもっと増やしてもらえないだろうかというコメントも審査員からは出されました。千代田区にはさまざまな歴史や文化があり、サポートの参加団体の中には、地域のことには大変詳しい方達もいらっしゃるのので、ネットワークを活かして活動内容の充実を図っていただければと思います。(鈴木)

7 神保町応援隊 (2回目)

「なべて神保町は一つの世界。あらゆる区民、これまた応援したい!」シェイクスピアの台詞に置き換えるところなる唯一再度応募の活動隊。裏方&表方を務めながら結構目立つ活動の持続性が見えてきます。「おさんぼ神保町」も3号、「うんちくマップ」など小マメにフリーペーパーを発行、活動資金調達も目安あり、武蔵野美大や今回初めて応募した活動グループを受け入れてより包括的に「@和@輪@神保町!」の発展性ある活動を大いに期待します。(山本)

8 NPO法人地図文化研究会 (1回目)

いわば地図のプロ集団であり、そのノウハウは質量ともに潤沢であろう。街中にマップミュージアムという拠点も捻出されており、恵まれた環境にも思える。一方、何を街にもたらそうとするのが明確でない部分もある。どんなに積極的な活動でも外部の声の吸収がなければ、地図文化の普及活動に終始してしまう。待ちの姿勢にならずに、幅広い区民が「参加」して成果を生み出すような活動を期待している。千代田で働く人々のまちづくり活動として今後が楽しみである。(金城)

9 日本橋川・神田川に清流をよみがえらせる会 (1回目)

きれいな川への取り組み、千代田での取り組みがとても楽しみです。その思いや活動を効果につなげるための戦略、コストダウンの工夫などが悩みどころ。各地での経験もふまえた活動方針が問われそうです。例えば川に投げ込む人がEM菌団子を買う、団子をどうつくるか、上流や隣接地区との連携、場所ごとのデータを活動前と後で比較するなど、いろいろな検討課題があるかと思います。全部は無理にしても、新しいチャレンジを期待しています。(早田)

10 SOTOBORI CANAL WONDER (1回目)

船から見ると発想が変わる、というアプローチが大きな可能性を秘めていることは衆目の一致するところ。ただしコンセプト自体は決して新しいものではありません。船からの新しい見方とは何か、あるいは船に乗った市民と、変わった気持ちを共有しながらまちづくりのアクションにどう結びつけるか、その辺りの明確な戦略が問われるかと思えます。外濠に関する各種行政計画との調整も課題です。研究蓄積を踏まえた活動を期待しています。(早田)

11 C-bridge (1回目)

今の時代、橋は「道路の一区間」であるだけのようにも見えてしまうが、特に江戸の街では、川（や運河等）は主要な動脈であった。私自身、橋や川面からの眺めを忘れて久しいが、両河岸に街を形成し、その街をつなぐ橋は、地域のシンボル、人々の心象風景や街の魅力を形成する重要な要素となるものであろう。橋梁の研究ではすでに実績があるメンバーであり、研究発表に終始することなく、千代田の魅力を多くの区民、いや全国、世界に向けて発信し、高める活動を期待している。(金城)

12 アキバ・クロスカルチャークラブ (1回目)

「まち」は生きていて、時とともにその様相は変化します。特に秋葉原は、歴史的にみても想像を超えた形で変化し、さらに現在も変化し続けています。でも、どんなに変化しても、人のぬくもりがなければ「まち」とは言えません。変化し続けているまち秋葉原を、新住民や旧住民だけでなく、そこに集う人々と交流・融合していく場を創出していく、という視点は、とてもすばらしいと思いました。

その方法として、まず、テーマを設定し、その調査・研究を行い、その成果をコミュニティウェアとして開発し、具体化し、そのようなイベントを実施する。そうした流れが、もう少しわかりやすくイメージできるように提示できたら良かったのではないかと、思います。次回に期待しています。(渡辺)

13 神田フェーダー・ニュートラル (1回目)

審査会でのプレゼン見事でした。まちサポプレゼン大賞を（個人的に）お贈りします。

すでに神田での活動や街の人達との交流をしているだけに、街の特色をよく理解していると思います。まちづくりで最も重要なのは、地域の「らしさ」を上手く引き出し、さらに刷新しているかということ。この活動は神田の街並みやおっちゃんに着目しており、音楽による活気あるまちの絵が想像できます。今後は単なる店頭・街角ライブにならないように、地道な活動を通じて着実に地元コンセンサスを得ていただきたい。最後に喜びの祝杯を挙げるおっ

ちゃんと共に、神田の街が輝けるように、乾杯！かんぱ〜い！（田熊）

14 カモデザイン研究会 (1回目)

助成対象にならず誠に残念です。お弁当のコンペでしたら間違いなくグランプリを取っていたでしょう。神田名物を作ろうとするコンセプト・アイデア等は大変素晴らしいのですが、まちづくりの視点で考えると、実現に向けての具体性が乏しい。現段階ではイベント（会場内）のひとつの企画に過ぎません。まずは神田技芸祭等を通じ、実際にまちの人と接して学び、そこから具体的な方策を導き出してください。次のまちづくりに繋がる何かが見つかるはずです。次年度の再チャレンジを期待しています。(田熊)

15 食育。街行く研究会 (1回目)

日本の伝統食・寿司屋、蕎麦屋へ行く小学生が一番多い街、神田・神保町は日本初の中華街だった千代田ならではの企画。私たちの体は昨日食べたご飯でできているというコマーシャルがありました。「食」は健康、日常の暮らし、文化の源。食育によって子ども自身、家庭、学校、地域が元気になっていくのが見えるような力強い発表に圧倒されました。どんなワークショップ、イベント（食の祭典）が開催されるのか、とても楽しみです。(服部)

16 スローフード・セントラルイースト東京 (1回目)

新しくプロジェクトを起こすとき、今あるものを壊して新しく作ることが多い中、空き店舗など元々ある資源を活用して、神田の街全体をテーマパーク化したいというコンセプトにとっても共感しました。美味しいものを食べると豊かな気持ちになり、元気が出ます。神田と産地の交流だけでなく、近隣の昼間人口を取り込み、スローフードの輪が広がることを期待します。(服部)

17 KIDSーこども飯田橋デザインスクール (1回目)

未来を担う子どもの無限の創造力を活かしてまちづくりを体験し感じてもらう、という企画内容は大変すばらしいと思いました。子どもが主役というのがいい、過去・現在を通して未来につなげたまちづくりをしていくという発想がいい。大人も大学生も専門家も一緒になってみんなでまちの模型をつくっていくという過程も楽しそうでいい。いい面がいっぱいあるのに、なぜか発表会ではうまく伝わらなかった。学校の授業という場だけでなく、放課後遊びの場とか、児童館とかさまざまな場で、ぜひ実現していただきたい。次回に期待しています。(渡辺)

18 まちづくりワン (1回目)

前回のトライアル部門に比較して今回は活動の目標がはっきり見え、意欲も感じられます。忠実なワン力を媒体として清掃・防犯から人間の感性にふれる優しい心を創りだす交流にむけて四本足を地に付けた活動の輪を広げてください。行政とのつながりもでき、また会員も次第に増えているようです。今後は地域的にもアイガーデンを核として徐々に行動範囲を広げてください。今後の活動を継続するためにも、収入源も考えていきましょう。なんとも微笑ましいこの活動を期待しますワン！（山本）

19 helpus! (1回目)

神保町という町とそこにいる学生が共に支え合いながら町の成長を促し、それがまちの活性化・発展につながるという趣旨の活動と理解しますが、今ひとつ、その思いが明確に伝わりにくい感ありでした。本年度はもう少し具体的な活動を計画して、学生たちだけでなく商店街やさまざまな年齢層の町の人々との交流を座軸に活動すればそこから新しい展開へとつながり、目指す神保町学生Curator shipが生まれ根付いてくるのではないのでしょうか？ その意義ある活動を期待します。（山本）

20 サロンforyou (トライアル)

自分の気の合う仲間とくプライベート=私>でまちに出る活動を楽しみながら広げつつ、それが次第にまちづくりという<皆さんと=共に>の活動につながっていけば、とても素晴らしいと思います。楽しむ活動といっしょに、まちのためにできることを（ますます楽しむために！）考える、それを試しに実行してみる、といった活動の具体的なアイデアが出てきたらぜひ事務局にも教えてください。素敵な縁が大きな輪に広がることを期待しています。（早田）

21 NPO法人ちきゅう市民クラブ (トライアル)

多くの外国人が住む千代田区では、多文化共生は一つの大きなテーマとなると思います。小学校との連携が、まず第一のハードルとなると思いますが、サポートの参加者のネットワークをうまく活かしながら、千代田らしさを活かした、地域に根ざした国際交流活動を模索していただければと思います。来年度の一般部門へのエントリーをお願いします。（鈴木）

(財)まちみらい千代田 賛助会員一覧 (法人:65社 個人:64名 計129)

2007年7月末現在

※本事業は下記の法人会員と個人会員の支援で運営されています。<賛助会員募集中>

【法人会員】	前田建設工業(株) (株)増岡組東京支店	(株)都市環境計画研究所 パシフィックコンサルタンツ(株) (株)ポリテック・エイディディ マト設計・コンサル(株) (株)ラウム計画設計研究所	東洋美術印刷(株) フィールファイン(株) プラットフォームサービス(株) ヨシモトポール(株)
【保険関係】 日本興亜損害保険(株)	【不動産関係】 エヌティティ都市開発(株) 協永(株) (株)久保工 住友不動産(株) 大日本企業(株) 三井不動産(株) 三菱地所(株) 安田不動産(株)	【広告代理業】 (有)フィールール	【個人会員】(敬称略) 青木 孝次 瀬川 昌輝 安孫子 政夫 高瀬 拓 安藤 岩三郎 立石 一郎 池 俊郎 立山 光昭 伊澤 優 寺沢 譲 伊東 敏雄 戸田 豊重 犬伏 真 二木 憲一 今川 守 早川 平典 浦田 泉 藤本 琢巳 扇谷 和栄 堀部 剛正 大熊 伸 松島 弓子 岡田 貫伍 松谷 優子 角地 登志子 松波 道廣 加藤 武夫 三浦 博子 北見 拓 三原 久徳 木村 進一 宮寺 孝臣 小林 勝彦 三輪 瑛子 小山 政士 森田 克弥 今野 隆雄 山崎 泰廣 新濱 信幸 渡邊 和 清水 玲子 鈴木 仁史 須藤 昭雄
【金融関係】 興産信用金庫 城北信用金庫神田支店 (株)東京都民銀行神田支店 (株)東日本銀行飯田橋支店 みずほ信託銀行(株) (株)三菱東京UFJ銀行 大和証券(株)本店営業部	【ビル管理】 鹿島建物総合管理(株)	【電機・通信関係】 ウェブリオ(株) 三洋電機(株)	
【建築・土木関係】 (株)大林組東京本社 大林道路(株)関東支店 鹿島建設(株)東京建築支店 五洋建設(株) 清水建設(株) (株)銭高組東京支社 大未建設(株) 大成建設(株) (株)竹中工務店 中央建設(株) 鉄建建設(株) 戸田建設(株)東京支店 (株)ナカノフード建設国内営業支援部	【緑花・環境関係】 日産緑化(株)	【コンサルタント】 (株)アーバントラフィックエンジニアリング (株)アフタヌーンソサエティ ジュネスプランニング(株) NPO法人都市住宅とまちづくり研究所 NPO法人マンション管理支援協議会 (株)都市デザインシステム ランドブレイン(株)	
	【建設設計】 (株)アール・アイ・エー (株)アイテック計画 (株)ADプロジェクト (株)エルイー創造研究所 (株)関東設計 (株)共立エステート (株)楠山設計 (社)東京都建築士事務所協会 千代田支部	【その他】 秋葉原商店街振興組合 秋葉原中央通商店街振興組合 秋葉原西口商店街振興組合 (株)イサミヤ 神田古書店連盟	他 21名